



令和7年度 第1回 中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会 開催レポート

開催日時

令和7年7月7日(月)
14:00～16:00

会場 | 中野島会館
参加者 | 21名

プロジェクトの目標

「子どもの健やかな成長の喜びを全ての世代が共有できるまち」



この目標に向けて、地域の皆様方と**協議会**を構成しあいさつ運動や多世代の交流の場づくり等の活動を通じて、中野島への愛着を育み、持続可能な地域づくりを進めています。

次第

- 1 協議会について
- 2 令和6年度協議会の振り返り
- 3 新規団体紹介
 - ・ほっこりカフェ
 - ・ウィズブック保育園中野島
 - ・第三ゆりの花保育園
- 4 協議会の更なる周知に向けた取組
- 5 今年度、実施した取組紹介
 - ・中野島のはら保育園での多世代交流
- 6 グループワーク
- 7 活動見学会の紹介
- 8 その他
 - ・協議会のこれからの方針性
 - ・活動紹介ハンドブックについて
 - ・アンケートについて



01 協議会について

本プロジェクトの背景や目標について、事務局より説明

平成28年度から東京都健康長寿医療センター研究所と多摩区役所が協定を結び、地域の皆様と一緒に「中野島多世代つながり愛プロジェクト」を開催しました。

「子どもの健やかな成長の喜びを全ての世代が共有できるまち」を目標に、地域の団体が参加しています。この目標に向けて、地域の皆様方と本協議会を構成しあいさつ運動や多世代の交流の場づくり等の活動を通じて、中野島への愛着を育み、持続可能な地域づくりを進めています。

02 令和6年度協議会の振り返り

令和6年度の取組及び地域づくりの進め方について、事務局より説明

令和6年度は、目標達成すべきテーマ・課題のうち、「防犯への取り組み」と、「地域との交流が少ない」を重点取組として選定しました。

中野島地区の地域づくりでは、令和6年度より 地域をより豊かにするために、地区内の様々な活動団体や場所などの地域資源を把握し、新たなつながり、新たな取組が生まれる環境・きっかけをつくる“地ヶ算”という手法を用いて、取組を推進しています。

“地ヶ算”って？



今ある取組に、地域の資源をちょっとプラスアルファ・掛け算することで、地域活動が豊かになる取組

＝ 「地ヶ算」



※「地域包括ケアシステム」と「かけ算」を組み合わせて生まれた造語

協議会の更なる周知に向けた取組

令和6年度第1回協議会等において、プロジェクトメンバーより本プロジェクトのキャラクターである「なかよしなっしーず」の更なる活用を、という声をいただきました。「なかよしなっしーず」を通して、プロジェクトを周知するための「なし部」を開催しました。(開催日:1月20日(月)10:00~12:00)

なし部で出たアイデア・第1歩(抜粋)

【アイデア】
子どもたちになかよしなっしーずのことを知ってもらうために、新たな広報媒体を作成

【第1歩】
ぬりえを作成してみる



【アイデア】
PTAの自転車のカゴに付ける防犯プレートになかよしなっしーずのイラストを入れる

【第1歩】
防犯プレートを作成し、PTAに付けてもらえるか打診する



【アイデア】
PTAの自転車のカゴに付ける防犯プレートになかよしなっしーずのイラストを入れる

【第1歩】
防犯プレートを作成し、PTAに付けてもらえるか打診する



【アイデア】
中野島地区の方になかよしなっしーずを広く知ってもらうために各団体の広報誌等を活用

【第1歩】
中野島町会報に定期的に本プロジェクトの取組を掲載できるか確認する



03 新規団体紹介

今年度から新たに加入した団体紹介

新規団体紹介

1. ほっこりカフェ

篠河 弘和氏

2. ウィズブック保育園 中野島

菅原 豊美氏

3. 第三ゆりの花保育園

欠席の為、事務局より紹介させていただきました。



04 協議会の更なる周知に向けた取組

協議会の更なる周知に向けて今年度実施した・実施予定の取組を事務局より説明

なし部で出た取組アイデアについて、今年度、順に実施していく予定です。早速実施した取組やこれから実施する予定の取組をご紹介させていただきました。

今年度実施した取組

- なかよしなっしーずのぬりえ・防犯プレートを保育園に配布
- なかよしなっしーずの防犯プレートを民生委員に配布
- なかよしなっしーずのタペストリーを作成し、活動時に掲示



今年度実施予定の取組

- 中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会の横断幕を新しく作成する
- 各種会報誌への掲載



05 今年度実施した取組紹介

今年度実施した地ヶ算について、中野島のはら保育園の住吉園長より紹介

実施日 4月16日(水)、5月21日(水)、6月18日(水)

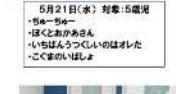
場所 中野島のはら保育園

メンバー 中野島のはら保育園 × りぶりんと・かわさき

内容 月1回りぶりんとさんをお招きし、よみきかせの会を実施しています。知っているお話、初めてのお話…子どもたちは聞きながら笑ったり驚いたり、絵本の世界を楽しんでいます。

りぶりんとさんによる「よみきかせの会」 中野島のはら保育園

月1回 りぶりんとさんをお招きし、よみきかせの会を実施しています。知っているお話、初めてのお話…子どもたちは聞きながら笑ったり驚いたり、絵本の世界を楽しんでいます。



6月16日(水)
対象:5歳児
この日のおはなし
・カタツムリにじむた
・どもだらうひにじむ
・ほくたつてかげ



06 グループワーク(主な意見抜粋)

Aグループ



■ 多世代交流の場づくりに向けた、地ヶ算の創出について

- これまで高齢者施設とは交流がなかったため、今年度は10月以降に高齢者施設への訪問を検討している。
 - ハグミーナーサリーをポールdeウォークの立ち寄り地点にしてもらえば、交流が生まれるのではないか。
 - <ハグミー・ナーサリー>×<中野島町会>
 - 敬老の日にハグミーナーサリーで高齢者と園児の交流ができないか。また、様々な職業の内容について園児に話ができる方を町会で募り、保育園内で話をする会を設ける。町会の高齢者が保育園を訪れ、園児に伝承遊びを教える。
 - <ハグミー・ナーサリー>×<ポールdeウォーク>
- 保育園がポールdeウォークの立ち寄り場となれば、参加者と園児との間で交流が生まれる。

■ 身近な地域で気になっていること、地域の課題だと感じていること

- 災害時の初動の際に地域と連携ができるとよい。誰に助けを求めることができるのか現状では分からぬ。状況によっては道路が液化化しているなど、実際に災害があった時の手順が分からず困っている。
- 町会を退会する人が増えてきている。町会自体に入りたくないという人もおり、町会の活動の負担を軽減するなど町会の運営自体を見直す必要を考えている。
- 働くうちは働く方が多く、民生委員の年齢上限(72歳)に引っかかり担い手となれないというパターンが多く、民生委員の担い手不足が課題である。



Bグループ

■ 多世代交流の場づくりに向けた、地ヶ算の創出について

・保育園児と高校生・大学生を繋げる

高校生・大学生は子供に関心がない。まずは、ボランティアをする大学生(SDCや明治大ボランティア)を中心に園児との交流を図りたい。

- なかよしなっしーずのタペストリーを増やす
- タペストリーをたくさんの箇所で掲示したいので、地域の人を絡めて作成会をやってみたい。
- 0~2歳は子ども食堂等で一芸を見せてもらったり、できることは限られるがふれあいの交流は可能。大学生(明治大ボランティア)が、地域とのつながりを探しているので、何かできると良い。
- 中野島フレンズ保育園と正月に多世代交流を行った事があり、その時は学年や世代を分けていくつかのグループを作って交流した。

■ 身近な地域で気になっていること、地域の課題だと感じていること

- 災害時に安全といえる避難場所がないので、毎日が不安。水害時は垂直避難で、3階まである建物に避難したいが受け入れてくれるところも少ない。
- 近くの避難所まで、大人の足で10~20分かかるてしまう。0~2歳も連れて避難することを考えると、より時間がかかるてしまう。
- 災害時を想定した地域のつながりづくりも必要なのではないか。
- 民生委員の方では、「担い手不足」が課題となっている。
- 災害対策について、子どもや高齢者のことをもっと考えなければならないと思う。
- ポールウォーキングのレクチャーができる講師が不足している。若い人で動ける人を中心にスタッフの後継者を増やしたい。



06 グループワーク(主な意見抜粋)

Cグループ



■ 多世代交流の場づくりに向けた、地ヶ算の創出について

- ・ 地ヶ算の実施がなかなか達成できなかった。その理由として、暑さや時間帯が合わないことが原因だと感じた。
- ・ 保育園との交流を実施したいとは思うが、子どもたちとどう接してよいか分からず。また、お茶のみ会なため、お茶菓子を子どもたちの分も用意するのは負担がかかるので懸念している。
- ・ あいさつ運動や、先ずは団体を知ってもらうなど小さい交流を行いたい。



■ 身近な地域で気になっていること、地域の課題だと感じていること

- ・ 多摩川が近いので水害時の避難が心配。
- ・ 風水害時には、垂直避難はできるが、小中学校までの避難はなかなか難しい。
- ・ 本番を想定した避難訓練をどこかの園と一緒に実施したい。
- ・ 老人会(フレンドクラブ)は12~18名で、後継者がいない。(やりたがらない)
- ・ 避難所について、そこまでたどり着けないのではないか。

Dグループ

■ 多世代交流の場づくりに向けた、地ヶ算の創出について

- ・ 地域との交流は、継続していくことが大事だと思う。
- ・ 中野島の地域のことを学び、自身の地域への理解に繋げていくカリキュラムがある。中野島商店街等に児童らが赴き話を聞いたり、お礼にお店のポスターを書いて掲示してもらったりしている。毎年楽しみにしてくれている方もおり、地域交流になっていると感じている。
- ・ 児童たちがお祭りを企画した際に、地域交流が縁となり商店街にも協力してもらった。



■ 身近な地域で気になっていること、地域の課題だと感じていること

- ・ 災害はいつ来るかわからない。地域でつながり、災害時にお互い何ができるか共有出来たらよいと思う。
- ・ 下布田小に依頼し、校舎3階へ避難する訓練を毎年しており、実際にレインコートを着たりしている。
- ・ 保護者になっしゃる方が付けてもらい、そのマークを付けている人は見守ってくれるということを教えるとよいかもしない。

Eグループ

■ 多世代交流の場づくりに向けた、地ヶ算の創出について

- ・ 中野島中学校では文化部(吹奏楽部、美実部、演劇部、合唱部等)が充実している。子どもたちに地域で活躍の場を与えてあげれば、張り切って行うと思う。
- ・ ジャグリング・フルートの練習等、こども文化センターの利用者には色々な方がいて、子どもたちが教えてもらったりすることもある。
- ・ 子育てサロンバンビでは、毎年、中野島のはら保育園と中野島フレンズ保育園に来ていただき、栄養士・保育士の講話や、手遊びをしてもらっている。



■ 身近な地域で気になっていること、地域の課題だと感じていること

- ・ 一人暮らしの高齢者の方で孤立している方が多いことが課題だと感じている。
- ・ 地域の課題としては、防災だと感じている。中野島中学校は避難所として指定されており、在校生も多い。中学生は、災害が起きた際には被災者である一方、重いものを運ぶことができる等、かなりの「戦力」になると思う。
- ・ そもそも避難所がどういう場所なのか周知が重要。

07 活動見学会の紹介

第1回活動見学会の実施

地ヶ算を実施するうえで、まずはお互いの活動を知ることが大切であるため、各団体の活動見学会を今後実施していきたいと考えています。また、第1回協議会後に活動見学会を実施予定です。他の団体の交流の様子を見学することで、新たな地ヶ算の創出に繋げましょう。

第1回活動見学会

日時 令和7年11月26日(水) 10:00~11:30

※定員10名

場所 多摩川住宅第二集会所

メンバー さんさん会 × なかのしまのぞみ保育園



※前回開催時

08 その他

協議会のこれからの方針性及び新たな取組(活動紹介ハンドブック)について

協議会のこれからの方針性

プロジェクトの目標である「子どもの健やかな成長の喜びを全ての世代が共有できるまち」の達成に向け、今後は以下の方向性で取り組んでいく予定です。

これまで

地区の課題解決をしながら
目標達成を目指しましょう



これから

「協議会の周知、「多世代交流」は
常に取り組みながら、地区の課題
をみんなで決定し、解決しながら
目標達成を目指しましょう

活動紹介ハンドブックについて

中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会の取組み
や団体情報の紹介等を掲載し、協議会及び活動団体の周
知する「活動紹介ハンドブック」を作成します。



□ お問い合わせ先

多摩区役所地域みまもり支援センター
地域ケア推進課／地域支援課 中野島地区担当
TEL:044-935-3228
FAX:044-935-3276
Mail:71keasui@city.kawasaki.jp



▲HPはこちら